

PROGRAM

チェロ組曲 第3番 ハ長調

エ レ ジ ー

エ レ ジ ー

カブリッッチョ

バ ッ ハ

ブ リ テ ン

ストラヴィンスキー

グ ユ ー タ ン

ヴィオラソナタ

シャコンヌ

ヒンデミット

バ ッ ハ

インタビュアー 金子 満雄

四季のコンサート 春

1985年3月28日(木) PM 6:30

浜松市民会館大ホール

主催：浜松音楽友の会

1980年 ロンドン・ロイヤル・アルバート・ホールで、
コリン・チャイヴィス指揮、ロンドン交響楽団とマイケル
録音したLPは1983年度 英グラモフ・フォン誌レコード大
賞を受賞した。ヨーロッパ各地でキング・オブ・チャ
(モーツァルト協奏交響曲)、ヨーヨー・ヴィ(R.シュ
1982年 バストン交響楽団定期演奏会に出演。現在は
オランダのヴェネツィアに居を構え、ハーグとコトトレ
のコンセルヴァトリーで教鞭をとるかたわら、デトモ
トの北西ドイツ音楽アカデミーの教授もつとめている。
なお、1980年以来 ミュンヘン国際コンクールの審査
員をたびたびつとめている。現在、日本を代表する弦楽
器奏者として欧米楽壇で大きな信頼をあつめている。

東京に生れる。船明学園大学卒業、イエール大学、
ジュリアード音楽院を経て、1967年 ミュンヘン国際
コンクール、1968年 ヴェネツィア国際コンクールのヴ
ィオラ部門にそれぞれ最優秀入賞、これよりヨーロ
プを中心に演奏活動をおこなう。毎年カザルス、マル
パ等の音楽祭の招待を受ける。1970年 西ドイツ音
楽功労賞を受賞、1974年 小沢征爾と新日本フィルの
国連コンサート並びに欧米旅行のソリストとして参加、
好評を博す。1973年 北ドイツ音楽大学音楽部助教
授、ヴァン・アールツのヴィオラ奏者として5年
間アメリカを中心に演奏活動をおこなう。
1978年 ロンドンに居を移し再びヨーロッパを中心
に演奏活動を行い、コリン・チャイヴィス指揮ロンドン
交響楽団とヘルムート・ザンペ作曲「イタリヤのハロルド」
を協演、同時にレコーディングもおこなう。

今井信子 (いまい のぶこ)

プロフィール



今井信子 ヴィオラリサイタル

無伴奏チェロ組曲 第3番 ハ長調

バッハ (1685～1750)

6曲の無伴奏チェロ組曲は、バッハがケーテンの宮廷で活躍していた1720年頃に作曲されたものである。各作品は、いずれもバロック時代特有の組曲の形式によって書かれている。

つまり、前奏曲と5つの舞曲から構成されている。これらの作品はバッハの傑作中の傑作であり、チェロだけでなく、いろいろな楽器で演奏されることも多い。今夕演奏される第3番ハ長調は、次のような構成になっている。

- ① 前奏曲 (3/4拍子 この曲全体の中で最も重厚な部分)
- ② アルマンド (4/4拍子 フランスで発達したドイツ風舞曲、テンポは中位)
- ③ クーラント (3/4拍子 フランスの古い舞曲、力強く、活気に満ちている)
- ④ サラバンド (3/4拍子 アラビアで生まれ、スペインで発達した荘重な舞曲)
- ⑤ ブーレー I, II (2/2拍子 フランスの舞曲、生き生きとした明快なリズム)
- ⑥ ジーグ (3/8拍子 イギリス起源の舞曲、活発で急速なテンポの舞曲)

エレジー

ブリテン

昨年6月、イギリスで世界初演された。今夕の演奏は、日本初演になる。

無伴奏ヴィオラのためのソナタ Op. 25の1

ヒンデミット (1895～1963)

ヒンデミットは20世紀前半のドイツを代表する作曲家である。そしてそれに加え優れたヴィオラ奏者でもあったため自らが演奏することを考えて作曲した4曲の「無伴奏ヴィオラのためのソナタ」を残している。

ヴィオラという楽器は作曲家にとってはまだまだ扱いにくい楽器であり、独奏曲もヴァイオリンに比べると圧倒的に少ないが、このソナタはヴィオラをよく知り尽くし、どうしたら最大限に生かすことができるかということを会得しているヒンデミットならではの作品と言えよう。

さて、今夜演奏されるOp. 25の1はヒンデミットの全作品中でも比較的早い時期、いわゆる「新即物主義」と呼ばれる時代に作曲されたもので、無伴奏ヴィオラ・ソナタの中でも特に有名で技術的にも大変高度なものである。曲は5楽章からなり、いずれも調性や拍子の明示がない。

ヴィオラ・ソロのためのエレジー

ストラヴィンスキー (1882～1971)

無伴奏で弱音を付けたヴィオラのための作品で、あるヴァイオリニストの思い出として1944年に書かれた。

曲全体を通して、おもに2本の旋律が静かに語り合うように流れていく。

ストラヴィンスキーは、1959年(昭和34年)に来日し、N響を指揮して自作の演奏会を催している。